

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	売れる米づくり推進対策費					
担 当 課 係 名	農 林 課		農 務 係		作成者	雲雀秀人
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	特色ある資源を活かした産業創造のまち				総合計画の ページ
	基本計画	特色ある農業の振興				
	主要施策	付加価値農産物の生産				63
予 算 費 目	一般 会計	6 款 農林水産業費	1 項 農業費	3 目 農業振興		
事 業 期 間	平成 18 年度 ~ 平成 21 年度			新規 / 継続の区分		継続
性 質 区 分	☐ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☒ 補助金 ☐ 内部管理					
根 拠 法 令 等						
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務					
運 営 方 法	☒ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助					

【事務事業の実施内容】

事業の対象（誰のため・何を）	市内の農家
事業の目的・意図（どういう状態にしたいのか）	売れる米づくりを推進するため、有機米、減農薬、減化学肥料米の生産拡大を図る。
事業の内容（どのような業務、活動を行うのか）	有機米、減農薬・減化学肥料米など付加価値農産物の生産販売を奨励し、産地化を図るとともに農業所得の確保に努める。

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	栽培補助面積	目標	ha	212	212	181	
			実績	ha	212	212	181	
			達成度	%	100.1%	100.0%	100.0%	
	成果指標	農家数	目標	戸	144	132	122	
			実績	戸	144	132	122	
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				2,474	2,478	1,967	
	人 件 費 (B)		—		2,356	2,421	2,378	
	職 員 数		—		0.30	0.30	0.30	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				4,830	4,899	4,345	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源				4,830	4,899	4,345
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		22,751	23,119	24,006
市民1人当たりのコスト(円)		—		151	156	140		

【事務事業の今までの成果】

取組農家や作付面積の減少により、栽培面積が減少した。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	大仙市、美郷町で同様の補助金あり。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	事業継続の要望あり。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
D	A 現状のまま継続（実施）	この事業も3年を経過しており、検討の 必要あり。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

交付要綱および単価等について再検討。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
C 1	取組農家や作付面積の減少を受け、事業効果の検証結果を踏まえて事業のあり方を見直した 上で推進する必要があると考えます。

一次評価診断図

